

〈目的〉 スカート着装時のフレアー効果を決定づける諸要因の中で、着着らは腰部形態に着目し、その形態的特徴を現わすと思われる扁平度を楕円筒モデル<sup>1)</sup>に、胴部と腰部間の周径差を円すい台モデル<sup>2)</sup>に仮定し、各モデルにおけるフレアー効果との関係を明らかにした。そこで今回は、両実験で得られた結果をもとに、扁平度、周径差の相互から検討を試みた。

〈方法〉 1) 楕円筒 周囲長(62.8cm)が等しく長・短軸の異なる7種 2) 円すい台上底面周囲長(62.8cm)が等しく下底面周囲長の異なる4種 3) 楕円すい台 1), 2)をもとに腰部形態に近似させたもの4種 1), 2), 3)各モデルにサーキュラー型試料布(平織10種)をセットしフレアーが形成された時のすそ形状と正面シルエットを撮影後、1) 2)モデルでその特性が明らかとなった測定項目の平均波高、波高変動率、波高間角度の変動率、すそ角度を選定し、その関係を考察するとともに、3)モデルとの比較を行った。

〈結果〉 フレアー効果の判定に際して、上記の測定項目が、腰部形態によってどのような影響をうけるかが判断できた。すなわち、平均波高、波高変動率は、扁平度、周径差両者に依存し、丸みのあるくびれ型の体型ほど効果的であり、波高間角度の変動率は扁平度に依存し、丸み型ほどノードの出方が安定する。またすそ角度は周径差に依存し、丸み型ほどすそ広がり角度が小さくなること等が明確になった。